

# 平成 26 年度事業報告書

学校法人国際学友会

## 1. 学生の増加

学校法人国際学友会の設置する国際学友会日本語学校は、前身であるアークアカデミー京都校の設備、営業を引き継いでスタートした。予想・計画を上回る勢いで、順調に入学者が増加した。前年（平成 25 年度・設立前）の入学者数と比較した。

	留学交付数		集中在籍数	
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
年度合計	64	94	117	153

留学交付数は、入国管理局に在留資格「留学」を申請して交付を受けた者、集中在籍数は附帯教育であって在留資格「留学」をもたない短期滞在者または在住者である。

両者とも順調に増加してきた。これは弊社のみならず全国の日本語学校全体に言えることであって、東日本大震災及び原発事故による影響は払拭されたと言えるだろう。1 \$ = 120 円前後になった円安の影響も大きいかもしれない。

前身のアークアカデミー京都校の時代から、少なからぬ集中在籍者は弊校の特徴の一つだったがいっそう顕著になっている。

## 2. 拡張計画

学生の増加に、主として教師を増員して対処した。

しかし、ゆとりのあった教室スペースも手狭になり、特に自転車通学の学生が増えたため駐輪場の確保も緊急の課題になった。

対応のために遅くとも 2 年内には拡張移転が必要であり、適切な校地・校舎の物色を始めた。定員 300 名の学校を目指すには、4 億円程度の資金が必要であり、資金調達計画を早急に策定する。

## 3. 大阪、東京の各種学校化

アークアカデミー大阪校、アークアカデミー渋谷校も各種学校化が課題になっている。平成 28 年 4 月の組織替えを目指して、大阪府及び東京都の関係部署との折衝を開始した。